

増設の講義棟と恵庭校舎 をつなぐ “架け橋”



はまなす の実

— 第 11 号 —

平成15年2月11日

鶴岡学園短期大学同窓会

札幌市南区藤野400番地

北海道文教大学短期大学部内

TEL・FAX (011) 592-7636

日本中が震える厳しい寒さで始まったこの冬も早や2月。南の地方からはチラホラ梅の便りも届く頃でしょう。とはいえ北海道はまだまだ白い魔物の術の内。間もなく「札幌雪祭り」も賑やかに開催されます。全国においても同窓の皆様にはお健やかに新しい年を迎えられたことと拝察申し上げます。日頃は同窓会の活動にご支援、ご協力を頂き有難うございます。

さて、母校は昭和17年に創立されて以来60周年を迎え、昨秋10月盛大に記念式典が行われ同窓会からもお祝いの席に同席させて頂きました。その記念行事の一環として、私達が長年願ってきた食物栄養学科の学部増設、大学・中国語学科の大学院新設についての申請・準備が進められてきましたが、昨年12月19日認可されたことが報道されましたから皆様も既にご承知のことと思います。平成12年に「学部拡充の早期実現を求める」活動を起こし、会員の皆様に同意書・基金造成をお願いして2年。多くの方々にご協力を頂きましたことを感謝致しますとともに、頂きました基金に基本金積立を合せ千



「創立60周年を迎えた母校に 新しい歴史の一頁が開かれました」

鶴岡学園短期大学同窓会

会長 北崎 迪子

五百万円を鶴岡学園に寄贈しましたことをご報告致します。栄養学校、短期大学と60年間の栄養教育を基盤に社会人としての管理栄養士を養成するべく「人間科学部健康栄養学科」としてスタートする喜びに加え、この春には外国語学部の第一回生が巣立ちます。大変喜ばしいことです。18歳年齢の少数化、専門学校の人気などで学生確保が困難な時代ではありますが、会員の皆様にも是非母校に「やる気のある学生」を送り込んで頂きたいと思えます。母校の隆盛こそ同窓会の繁栄につながるものと信じております。本年も又若い仲間を迎え同窓会の輪が一段と広がります。「会員の親睦を図る」という同窓会の最大の目的を達成する為、一日も早く支部を充実したいと作業を進めております。情報、ご意見、次回の新聞にというご自身の作品など電話、ファックス、ホームページ等を利用なすってどしどしお寄せ下さい。

平穏で平和な日々、母校の更なる発展、皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。

『新たな段階』



鶴岡 学園 理事長
北海道文教大学短期大学部学長

鈴木 武夫

昭和十七年に創立者鶴岡新太郎・トシ先生ご夫妻が「北海道女子栄養学校」を設置されてから六十年を越えました。昨年の十月には六十周年記念式典を執り行いましたが、今改めてこの年月を振り返りますと、感慨無量のものがあります。

学園の更なる発展を期してこの六十年の記念事業として「北海道文教大学大学院グローバルコミュニケーション研究科」と「北海道文教大学人間科学部健康栄養学科」の設置申請に取り組んで参りましたが、平成十四年十二月十九日付けで文部科学省より認可を戴き、いよいよ新しい段階へと歩みを進めることとなりました。

この今日の姿を鶴岡先生ご夫妻がご覧になられましたなら、どれほどお喜びになられたかと同慶の念を強く感じますと共に、理念と夢の持続の大切さを感じます。

これは学園の教職員の一致協力した

努力の結集の賜物ではありますが、同窓生の皆様、なかでも「北海道女子栄養学校」以来の伝統を継ぐ「鶴岡学園短期大学同窓会」を中核とした沢山の同窓生の皆さんのご支援があつてのことだと肝に銘じております。

創立六十周年記念式典と相前後して取り組まれました「鶴岡学園設備資金募金」におきましては、「鶴岡学園短期大学同窓会」からも多額の募金をいただきました。新設される人間科学部健康栄養学科の新校舎設備等を含めて有効に役立たせていただきます。同窓生の皆様は正に永遠の応援団であることを心からありがたく思っております。

私学が「冬の時代」といわれて数年になります、木の葉の落ちるのは新しい葉の芽が生まれることを意味し、茎が枯れて地の底では花芽が生長していることでもあります。次の春は冬の時期に準備されるものであります。

学園は新しい段階を迎えるための準備

を整えました。厳しい冬の間に環境を整え、これに水をやり肥料を与えて生長させ、花を咲かせるのは私たちの使命であります。

鶴岡先生ご夫妻が戦時下に七名の新生入生をもってこの学園を始められた小さな小さな教育の種子を、六十年を経てこのような大樹に育て上げられたご苦労から、学園の全教職員が教訓をくみ取りながら進みますならば、どんな困難も乗り越えられると確信します。私たちの共有する教育の種子である建学の理念は、社会のニーズに先進的に応えながら、どんなに困難な状況にあつてもすばらしい人生を切り拓いてゆく能力を、すべての学生へ提供することを目指して努力することにあります。

「鶴岡学園短期大学同窓会」の皆様におかれましては今後一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。次第であります。

管理栄養士国家試験について

栄養学校又は食物栄養学科を卒業された同窓生にとっては、毎年実施される管理栄養士国家試験の関心は高いと思われれます。本年度も第十六回管理栄養士国家試験の合格者が平成十四年六月十日に発表になりました。

全国の合格率は昨年度を〇・五%下がりが二〇・九%でした。本学にとつても、二三名という合格人数でした。全国の養成校の合格者数を見ると、管理栄養士養成校の合格者が圧倒的に多く、栄養士養成の合格者は本学だけではなく大変減ってきています。実務を重ね十三科目を受験することはかなり厳しい状況であることがわかります。

また、本年度の平成十四年度から栄養士法の一部改正にともない、十七年度から実施される国家試験は時期も内容もがらりと変り、昨年度以前に卒業された同窓生にとっては、更に管理栄養士の道が遠くになってくる思いがします。管理栄養士を目指し頑張っている卒業生に少しでも新しい情報の提供と学習の応援をすることを目的に準備講習会も毎年本学の校舎（恵庭キャンパス）で実施しています。本年度も平成十五年二月十五日（土）・十六日（日）の二日間実施します。五月十八日（日）に第十七回管理栄養士国家試験を受験される同窓生の皆さんは、仕事と学習を両立させながら大変でしょうが、頑張ってください。

第十六回管理栄養士

国家試験合格者名

瀬戸 正子・小林みどり・吉岡美智子
平中希美子・市岡 誠子・佐藤 淳子

お元気でですか？

私の財産



食物栄養学科講師

草刈 孝

卒業生の皆さんお久しぶりです。それぞれお元気で活躍のことと思います。私、「公衆衛生学」の草刈です。「あれっ、そんな先生だったっけ」とか「まだいたの」とか言われそうです。前期の「山菜」の話や後期の「きのこ」の話などを思い出していただければ上々です。

私もいつの間にか栄養短大、文教短大そして文教大学短期大学部と経過し十年が過ぎました。ということは、食物栄養学科、専攻科、別科をあわせて約二千人ほどの卒業生を送り出したことになり、これは私にとって大きな財産でもあります。

私の授業が皆さんの卒業後の生活の中でお役に立っているのかどうか知りたいところですが、いずれにせよ、私

のこの財産がそれぞれの場でさらに活躍し大きくなることを楽しみにしております。近況など知らせて下さい。

お元気でですか



幼児教育学科長

佐藤 信雄

卒業生の皆さんお元気でですか？私がこの学園に初めて来た日から四半世紀以上の時が流れました。当時は学生の皆さんは年齢もあまり違わなかったのですが、今では学生のご両親のほとんどの方よりも私の方が年長です。時の流れは速いものですね。いつまでも若々しい気分でいたいところですが、このごろは頸部椎間板が磨り減ってしまったりとかで『頸部牽引』のリハビリ治療を受けたりしています。早い話が『首つりの稽古』をしているようなもので、なんとも妙な気分です。それでもギターは今でも続けていて先日も新しいアンプを買ったばかりです。好きな曲はボサノバ、クラシック、そしてやっぱりビートルズ。いつも気分は青

春です。

お元気でですか



幼児教育学科

上羽 緑

卒業生の皆さんお元気でですか。自然豊かな藤野のキャンパスに少し、思いを馳せてみて下さい。あなたが学生当時、通学していた坂道は泥んこ道？砂利道？それとも舗装道路でしたか。そして、卒業後は社会人としての道をどのように歩んでいらっしゃいますか。藤野から、食物栄養学科、生活文化学科(家政学科)の学生を送り出し、現在は幼児教育学科の学生のみになってしまいました。が、学生達は以前にも増して、明るく逞しく、専門職への道に向かって日々励んでいます。今日も朝から元気な挨拶が飛び交い、歌声が響く札幌キャンパスです。皆さんも是非、思い出の詰まった学びやへ足を運んでみてください。お待ちしております。

- 星野 早苗・山名麻衣子・浅川 峰子
 - 中村 早苗・佐藤美彩緒・辻 志保
 - 福川 信子・吉井 直子・東 千恵子
 - 清水 久美・豊岡 千晶・鍋島 麻里
 - 新井田洋子・三井 智恵・工藤 鉄也
 - 佐藤 律子
- 以上二二名の方おめでとうございます。

管理栄養士・栄養士の

求人について

大学へ中途採用の管理栄養士・栄養士の求人が来ます。卒業生の動向が把握しきれれておりません。是非学校へ情報をお寄せください。学校側からも求人の情報の提供はさせていただきます。氏名(旧姓も)・卒業年・現住所・電話・メールアドレス等を左記までお知らせください。

- △連絡先▽担当・田中 律子
- ★はがきの場合
- 〒〇六一―一四〇八
- 恵庭市黄金町一九六番地一
- ★FAXの場合
- 〇一二三―三四一〇四四七
- ★e-mailの場合
- ritsuko@do-bunkyo-dai.ac.jp

特集

鶴岡学園開学六〇周年記念

橋本美佐子先生にインタビュー

今年度は、鶴岡学園開学六〇周年を記念しまして、本学の名誉教授であり、第一期の卒業生でもある橋本美佐子先生に創立者である鶴岡ご夫妻や学生時代の思い出などのお話などを伺ってみました。

本来であれば座談会形式の様に向名かて話し合えば色々な話が思い出されて楽しいものになるのに、私だけの話となると「私の思い出」になりますかと、恐縮しながらのインタビューになりました。

晴れの一期生



私は昭和十七年の、鶴岡学園が道内で最初の栄養士養成校として北海道女子栄養学校を開校しようとしていた時でしたので、その時の話をします。

入学したときは、たった七名だけの入学式でした。私は東京の女学校を卒業したばかりだったので、授業は百五十名とか、クラス単位の六十名ぐらい

を想像していたのです。でも入ったら七名しかいなくて……。お料理を習うくらいだから、かえって少なくていいのかなと少し心細く思っていたら、鶴岡新太郎先生が、これだけは本当に忘れられないのだけど「初めの入学式に、こんなにたくさんさんの生徒が集まってこられて、こんなに嬉しいことはありません。」と言われました。私は少し不思議に思いましたが、「東京にある栄養大学の香川先生の所は、最初の入学の時は三名だったそうだけど、北海道の片田舎の中で七名の学生は、すごく多い」と、そのような解釈の仕方をなさっていた先生でした。また、その頃は、満蒙開拓で北海道からも若い人達が満州の開拓に引っ張りだされていた時期で、私の親戚の酒屋さんも満州で成功していたけど、「北海道の開拓もまだまだ不十分なのに、他の国を開拓するなんてことは許されません。」と言っていました。当時は国家が行う事業を批判するようなことを、鶴岡新太郎先生がおっしゃって、少し怖いなと思いました。心の中では私も本当はそうだなと思っていました。「北海道の

開拓なくして、日本の発展はありませぬ。」それに「私は北海道の女性は全部栄養士にしたいです。家庭の主婦は一家の食生活を担当する。一家の発展がなければ北海道の発展はありませぬ。」ともおっしゃいました。でも、たった七名の入学生で北海道の女性全部を栄養士にするなんて……。それは先生の抱負でしたが、今考えてもすごいことだと思います。本当に物事を良く解釈する先生でした。入学式の時のその言葉が印象に残っていて絶対に忘れられない思い出です。

スポンジケーキが苦手

授業は、午前中は北大から生理学や栄養学の先生が通ってこられて講義をなさり、昼からは、新太郎先生の調理実習で、リヤカーを引いて食材を工面なさっておりましたが、でもその姿は私達生徒には見せませんでした。調理は大変厳しいものでした。全員で七名しかいなかったからかも知れませんが、一人一人の包丁の使い方はもちろん、調理の姿勢までよく見てくださいました。

私はスポンジケーキを焼くのが下手でした。今みたいにオーブンがある訳でもなく天火で焼くのだけれども、試験のときに上手く焼かず、日曜日にやり直しの材料を抱えて学校へ行き、それでも初めは失敗して、昼から二回目

に焼いたとき先生が出てこられて「合格」と言ってくれた。包丁使いやソースを作るのは上手くできたけど、スポンジケーキだけは下手だったのよ。力がなかったから泡立てることが出来なかったのね。でも、努力は認めてくれました。

道庁に就職

卒業して道庁に栄養士として勤めました。道庁には私ともう一人、佐伯栄養学校出身の人がおりました。栄養指導の業務で地方に行っても、二人とも若いから打ち合わせをしないのよね。

私は、「ごほうは灰汁を取るために、切ったら水につけて置いてください。」と言いました。でももう一人の栄養士は、「水溶性ビタミンが損失するため水にはつけないで下さい。」と指導するの。二人で正反対のことを言うの。係長とその人が一緒の意見で私は別の意見でした。確かに水溶性ビタミンは水につけて置くと失われるけど、灰汁を取るためには水につけておかなければならないし、微量成分すべてが良いものとも限らない。また、その時の栄養学の理論がすべて正しいとも限らないのよね。私も当時は若かったから、むきになって、母校に何度も通い新太郎先生や非常勤の北大の先生に新しい知識や栄養学を教えてくださいました。母校と言うのは良いものよね……。

学問や理論は時として分析する機材の能力などで変わるけれども、食材の色や味を無視はできないでしょ。新太郎先生はどちらかと言うと料理・調理を大切にされた教え方をしてくれたと思います。

トシ先生のパワーと

新太郎先生の熱意

私は結婚して、道庁を辞めて昭和三年から鶴岡学園に再就職しました。そこでそれまでの色々な話を伺ったわ。

私が入ったときはまだ認可は降りておらず、トシ先生が毎日毎日、羽織袴で道庁に通って、食べ物を配給している時代に食べ物を利用した料理学校などはもっての外だと言われたらしく、とても認可が降りる状態でなかったのに、見事に説き伏せたいらしいです。係の人も根気負けしたみたいね。また、トシ先生は卒業生を大切にされました。私の就職先の道庁にも何回も何回も来ていただき…。卒業生の就職先にも良く回っていたわ。新太郎先生は杖をついていたけれど、トシ先生のファイトは変わっていません。夏は一重、冬は裕なの。食事は二食、どれだけ辛抱したかわかりません。あなたはご夫妻の住んで居られた南三条西七丁目の建物を知っているでしょ。元、法人本部があったあの建物の十畳一間の

居間で生活をされていました。新太郎先生は以前より本を書いておられて、その印税をためて辛抱した生活をなさっていました。短大の認可のときもそうよ、だから私は、佐々木シロミ先生に「トシ先生のお供をしていたのだから、トシ先生のように粘り強くやればいいのよ。」と、よく言ったものよ。

私が学園の職員だったころは、新太郎先生は目が不自由なのに火の状態も鍋の音で判断されていました。それは大変厳しいものでした。それだけ先生は勉強をなさっていたと思います。だから目を悪くなさったと思うの。何を聞いても即座に教えていただきました。すぐに教壇にたつように指導されて、試験をするのよ。私は先生の目が悪いことをいいことに、質問されたら直ぐに答えられるよう、ノートに指を挟んでいました。ノートのかすかな音できくと気づいていたと思います。

こんな事もあったわ。終戦当時料理に着色するのが流行った時代がありました。色を使うと料理が鮮やかになるけど新太郎先生は着色を嫌いました。「料理にはその材料の色で充分、絶対色を使ってはいけません」といつもおっしゃっていました。その時代時代に流されなかった、信念を通す方だったとつくづく思います。

学校を作る前まで、鶴岡新太郎先生

は道庁から頼まれて、貧しい食生活を改善すべく色々な料理を考案しました。阿寒湖の近くでは「まりも汁」、北見では海老を使った「北見焼き」、その土地の産物で特徴のある料理を作ったからって、それを私達が習ったのです。今の言葉で言えば、「地産地消」ですね。でもそれは戦前の北海道ではとても大変なことだったのです。今の北海道しかわからないあなたには、とても考えられない状況だったと思うわ…。

インタビューを終えて



先生が学生時代に調理が下手だったとか、日曜日に再試験を

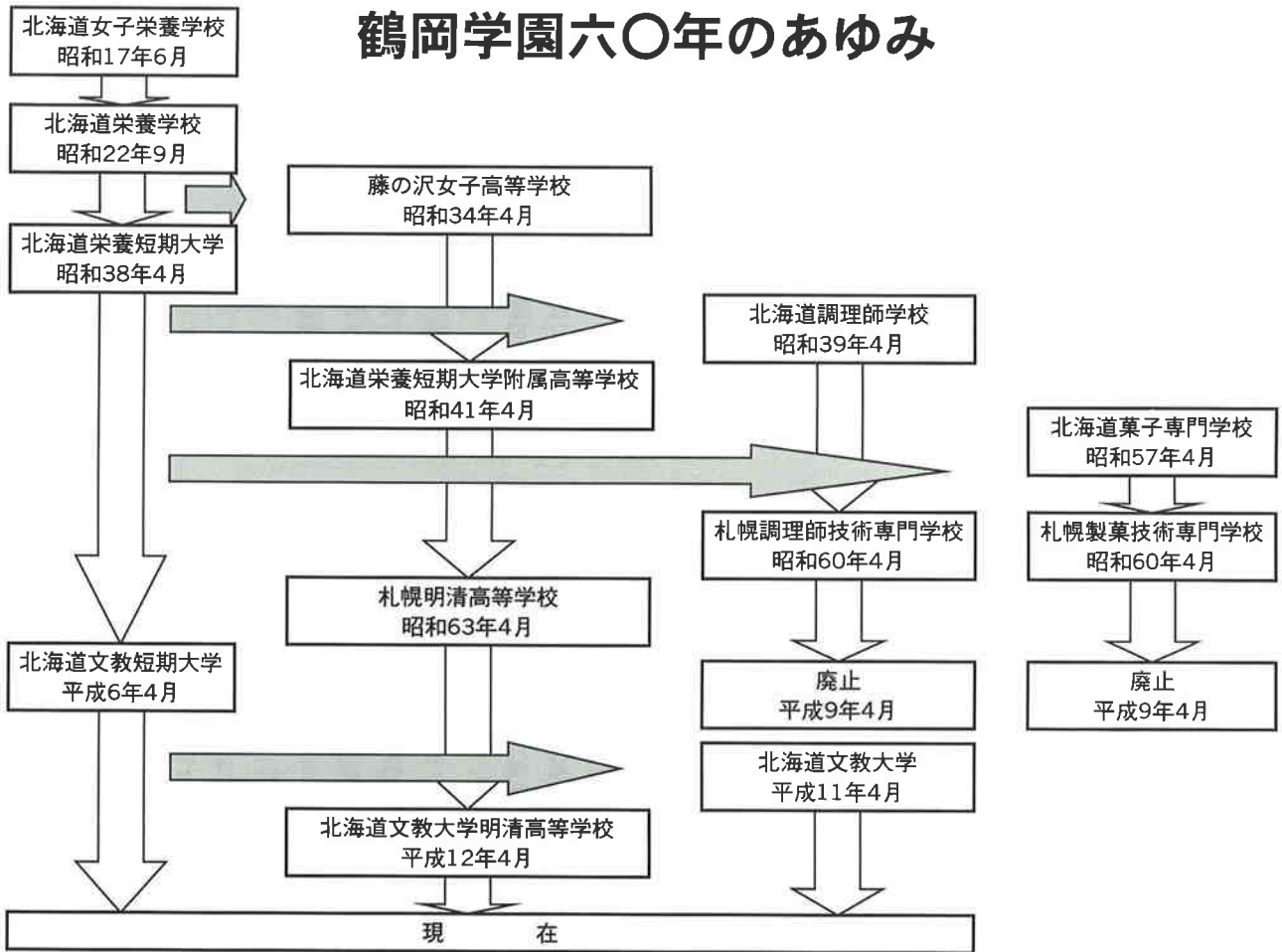
なさった話は始めて聞きました。私は、二〇年ほど前、日本鋼管で製品の検査をしていました。水道管は亜鉛でメッキをするのですが、確かどこかの大学の医学部で亜鉛は発ガン性物質と発表され、水道管の亜鉛メッキが問題になったことがありました。それで、

CPVCやPVCという新しく材料を使って、水道管をコーティングする方法を研究・開発しておりました。それでも結局、現在も水道管は亜鉛メッキのままです。都会では水道水が汚れて美味しくないということでもミネラルウォーターを飲むようになり、その結果かどうかわかりませんが亜鉛不足による味覚障害が問題になっています。食物繊維も昔は悪者扱いだった時代があります。山菜や、料理の焦げだって発ガン性が問題になることもあります。極端に走らなければ美味しい風味もあると私も思います。昔のように食料不足でも、栄養不足でもありませんが、かえって栄養過多・バランスの悪さや料理の手抜きが目立ってきている時代になっています。食材料を扱う業者への不信やメディアや情報の氾濫、誤った個人主義によるモラルの低下など…。

現在の経済状況の中、日本の食料基地である北海道の地位の向上も訴えられているときに、今から六〇年も前に「地産地消」の考えや北海道と「食」を結びつけた開学の理念は、私たち卒業生も守り、発展させて行かなければならないと痛感いたしました。

(食 26 工藤 祐司)

鶴岡学園六〇年のあゆみ



「食物栄養学科の学部充実の早期実現を求める運動にご理解とご協力を」

標記の運動も二年目に入りました。会長挨拶・学長の「新たな段階」でも紹介の通り、人間科学部健康栄養学科の設置申請が、昨年十二月に文部科学省で認可されました。第十号のはまなすの実では、(平成十三年六月末日)寄付金が一、七四九、三八〇円でしたが、今年度は、(平成十五年一月末日現在)一、一八七、七四〇円で合計二、九三七、一二〇円です。

今年が運動三年目、区切りの年度でもありませんので、引き続き会員の皆様には、よろしくお願いたします。

寄付金を頂いた方々の芳名

- (敬称略)
- | | | | | |
|--------|--------|--------|-----------|------------------|
| 栄養学校 | 昭和17年卒 | 橋本美佐子 | 昭和50年卒 | 金子 妙子 |
| | 昭和20年卒 | 山田 良子 | | 西森 郁子 |
| | 昭和21年卒 | 北川 幸子 | 昭和56年卒 | 村田智津子 |
| | 昭和24年卒 | 木村 陽子 | 昭和60年卒 | 今泉 直子 |
| | 昭和29年卒 | 串崎 静子 | 平成元年卒 | 加藤 聡子 |
| | 昭和32年卒 | 國枝 綾子 | 平成2年卒 | 工藤 祐司 |
| | 昭和35年卒 | 佐々木志津子 | 平成4年卒 | 浅野さゆり |
| | 昭和36年卒 | 谷岡 良子 | 平成11年卒 | 東 定利 |
| | 昭和38年卒 | 丸子 和江 | 家政・生活文化学科 | 小枝 裕子 |
| | 昭和39年卒 | 谷戸 和子 | 昭和43年卒 | 池田 啓子 |
| 食物栄養学科 | | | 昭和51年卒 | 笹山 幾子 |
| | 昭和40年卒 | 中島 洋子 | | 國枝 綾子さん |
| | 昭和43年卒 | 鎌田富美代 | | 池田 啓子さん |
| | 昭和44年卒 | 清水美代子 | | 北川 幸子さん |
| | 昭和45年卒 | 木村 敏恵 | | 工藤 祐司さん |
| | 昭和47年卒 | 又野千嘉子 | | には多額の寄付を頂いております。 |
| | | 岩崎 美子 | | |

支部の充実について

ここ数年、総会でいつも話題になっていた支部の充実について、今年度は二回の支部長会が開催されました。名簿整理が一段落つき、また、交通の便や距離等を考慮し支部の活動を活発にできるように再編する方向で話し合われています。支部名と人数は、石狩支部五、六七七名、ただし人数が多いため、現在札幌市以外の九八七名を石狩支部のままとし、(札幌市を区で分類し、東区六三六名、南区五二〇名、西区五一九名、北区六四三名、手稲区三六五名、白石区四三三名、中央区四〇二名、厚別区三一一名、清田区三二七名、豊平区五三三名であったが、どのように区を再編集するかも話し合われています。)渡島・檜山支部二二四名、後志支部五二二名、空知支部五七六名、上川支部四八八名、留萌支部一一一名、宗谷支部一二二名、網走支部五二二名、胆振支部五五六名、日高支部一六四名、十勝支部四二六名、釧路支部二七九名、根室支部一一六名、その他(道外)九七七名でした。札幌市の区に細分化と各新支部の支部長は、現在の支部長や同窓会役員で人選し、お願いするよう努力している状況です。

鶴岡学園短期大学同窓会支部長名簿

支部名	氏名	自宅住所 (TEL)	勤務先 (TEL)	期
石狩支部 石狩・空知	石澤恵美子	〒066-0071 千歳市桜木町1丁目3-8 TEL 0123-23-3511	北海道文教短期大学 TEL 0123-34-0211	食22
道南支部 後志・桧山・渡島	小野 幸子	〒044-0014 虻田郡倶知安町南4条東3 TEL 0136-22-0033	倶知安学校給食センター TEL 0136-22-0506	食2
日胆支部 胆振・日高	菅原 美子	〒050-0054 室蘭市白鳥台2-38-6 TEL 0143-59-3306		栄12
道北支部 宗谷・留萌・上川	伊藤 静子	〒097-0012 稚内市富岡4丁目13-2 TEL 0162-32-1056	稚内市立病院 TEL 0162-23-2771	食3
道東支部 網走・十勝	佐藤由美子	〒099-0409 紋別郡遠軽町南町3丁目4-451 TEL 01584-2-4848	遠軽厚生病院 TEL 01584-2-4101	食17
根釧支部 釧路・根室	山田 敏子	〒085-0053 釧路市豊川町17-19 TEL 0154-24-7237	トップラン道南研究所	食3

平成14年度予算

自 平成13年10月1日
至 平成14年9月末日

収入の部 (単位:円)

科目	金額	備考
前年度繰越金	2,286,684	
会費	4,425,000	12年度分 294名×15,000円=4,410,000円
利息収入	1,500	普通預金利息
名簿代	8,000	2冊
計	6,721,184	

支出の部 (単位:円)

科目	金額	備考
前年度繰越金	300,000	会場費、ビンゴ景品代
卒業記念品費	295,000	295名×1,000円
印刷費	1,000,000	総会の案内・会報印刷等
通信費	1,500,000	総会案内・会報発送・支部通信費 電話代・切手代・他郵送代
事務消耗品費	150,000	事務用品
会議費	500,000	常任幹事会・支部長会・幹事会・会報 委員会・4大特別委員会等の会議費
交通費	500,000	常任幹事会・支部長会・幹事会・会報 委員会・4大特別委員会等の会議費
アルバイト費	250,000	名簿及び事務の整理 消息不明会員の追跡費用
名簿整理費	300,000	名簿等の整理
研修費	200,000	講演会・講習会開催の為
予備費	50,000	
基本金積立金	1,000,000	定期預金
次年度繰越金	676,184	
計	6,721,184	

平成13年度決算

自 平成12年10月1日
至 平成13年9月末日

収入の部 (単位:円)

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,369,511	1,369,511	
会費	4,575,000	4,410,000	12年度分 294名×15,000円=4,410,000円
利息収入	1,500	2,063	普通預金利息
名簿代	8,000	4,000	1冊
寸志		20,000	招待の先生からの寸志
計	5,954,011	5,805,574	

支出の部 (単位:円)

科目	金額	決算	備考
総会及び懇親会	500,000	184,568	ビンゴ景品代、会場費
卒業記念品	305,000	215,197	330名×565円 のし紙代 3,500円 会則小冊子 15,000円 内消費税 (22,950円)
印刷費	1,000,000	798,554	総会の案内印刷 会報印刷、はがき印刷
通信費	1,500,000	1,155,501	総会案内・会報発送 電話代、切手
事務消耗品費	150,000	72,976	事務用品、コピーカートリッジ
会議費	500,000	336,154	常任幹事会、会報委員会、 幹事会
交通費	500,000	286,240	常任幹事会、会報委員会、 幹事会
アルバイト料	500,000	314,700	名簿及び事務の整理 消息不明会員の追跡費用
名簿整理費	10,000	0	
研修費	300,000	155,000	講演・演奏お礼、車代
予備費	55,000	0	
基本積立金	0	0	
次年度繰越金	639,011	2,286,684	
計	5,954,011	5,805,574	

平成十四年度事業報告

一、同窓会名簿の整理
 二、平成十三年度卒業生への記念品贈呈
 三、研修会(講演会、講習会、見学会等)の開催

四、会報の発行
 五、支部の充実
 六、食物栄養学科4年生大昇格について
 七、その他

平成十四年度 同窓会総会のご案内

■日時 平成十五年三月八日(土)

受付 十六時～

総会 十六時三十分～

懇親会 十八時三十分～

■場所 後楽園ホテル(札幌市中央区大通西八丁目)

TEL(〇一一)二六一一〇一一番

総会及び懇親会

■会費 六、〇〇〇円

◆役員◆

会長 北崎 迪子(食3)

副会長 後藤田倫子(食3) 田中 律子(食12) 松本 寛美(幼17)

常任幹事 橋本美佐子(栄1) 市村 英子(栄5) 菅原 美子(栄12)

植本 浩司(食26) 東 定利(食28) 熊谷 理恵(幼14)

池内 聡美(幼18) 鈴木 亜子(専9)

小向 朝子(幼12) 工藤 祐司(食26)

北川 幸子(栄4) 工藤 美香(食26)

会計 北川 幸子(栄4) 工藤 美香(食26)

会計監査 北川 幸子(栄4) 工藤 美香(食26)

同窓会事務局

(札幌市南区藤野四〇〇番地・北海道文教大学短期大学部内)

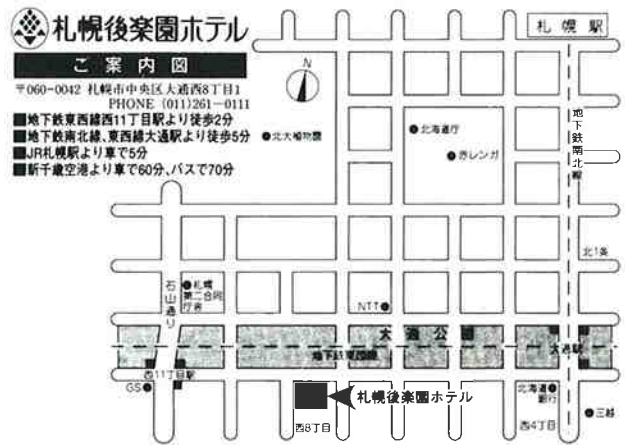
直通専用電話

〆・FAX(〇一)五九二一七六三六番

ホームページ

http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~turuoka/

e-mail:turuoka@muc.biglobe.ne.jp



編集後記

同窓会「はまなすの実」第十一号も無事発刊することができました。今回は開学六十周年を記念しましてほとんどすべての記事を旧・現教職員にお願いいたしました。本来であれば会員の皆さんの現況等も載せて、より充実させたものと思っておりましたが時間の都合で十分に検討できなかったことについて深く反省をしています。そこで、会員の皆様にお願ひがあります。編集委員会では編集委員の募集を行っています。「はまなすの実」の発行と新たに同窓会ホームページの更新を含めた編集委員会にしてみませんか？

次年度は編集委員会の活動を活発にするため定期的な委員会の開催、また、

インターネットを利用した連絡網の確立なども考えています。

数年前までは十名近くいた委員も委員会に出席できないと言う理由で減り始め、現在ではたった三名、このままでは発想も内容もワンパターンになってしまいます。「たまには札幌へ遊びに行こう。」そんな不順な理由でかまいません。委員会出席の交通費は実費で支払われますので金額的には少ないですがいかなるものでしょう。委員とは別に会員の皆さんのご意見・ご感想なども同窓会事務局宛にファックスかEメールでお寄せ下さい。

同窓会のホームページでも会員の交流を目的としたエリアを留意してあります。これらのスペースを十分活用して活発な意見交換のできる同窓会を作って行きませんか。

長年の希望であった大学の人間科学部健康栄養学科の開設も実現しようとしています。今度は、真に「会員相互の親睦」を実現するために、会員皆さんのご意見・ご協力を編集委員一同お待ち申し上げます。

編集委員 北崎 迪子・松本 寛美

工藤 祐司

発行所 鶴岡学園短期大学同窓会

会長 北崎 迪子

編集委員長 工藤 祐司

札幌市南区藤野四〇〇番地

電話(〇一一)五九二一七六三六番

(題字は浅見晴江さん(食4期)による)